

奨学基金は次年度より運用へ

今年度は、奨学基金の目録を総会の会場で後藤学長に渡しました。次年度から基金を運用予定です。

寄付金を受け付けています

名古屋電気学園では、寄付を受け付けております。寄付の仕方や寄付をしたことによる減免税等のメリットもありますので、詳しくは学園のホームページをご覧ください。

<http://www.nagoyadenki.jp/support/>

入学奨励金の制度について

今年度までは、卒業生、在校生の兄弟姉妹並びに卒業生のお子様があいち工業大学へ入学した場合、入学後の申請で入学奨励金が支給されておりましたが、次年度入学者からは、卒業生のお孫様にまで拡大され、入学奨励金の制度がより利用しやすくなります。

皆さんからのお便りをお待ちしております

会報誌『みずわか』では、同窓生の皆さんの近況や同窓会の報告などを掲載しています。

簡単な文章と写真を添えて、下記の同窓会事務局まで、メール、郵送、FAXのいずれかでお送りください。

掲載をさせていただいた方には、粗品を差し上げます。

愛工大でロボカップ開催

2016年3月25(金)～27日(日)に「ロボカップ ジャパンオープン2016愛知」を愛工大で開催します。期間中は自由に競技をご覧ください。ぜひ、この機会に大学へお越しください。

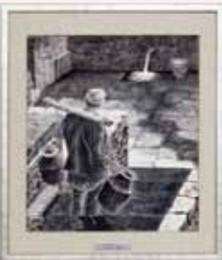
※ジュニアの開催は26・27日の2日間




ロボカップ世界大会2015(中国)において愛工大のチームが優勝

同窓生から瑞若会へ寄贈品

同窓生のお二人から自作の作品を寄贈いただきました。若山茂さん(37E)の作品は趣味の水墨画、鈴木俊克さん(37E)の作品は陶器の花瓶です。



▲展覧会で受賞した花瓶

第58回東美展優秀賞受賞作品・題▶「水汲み」。ネパールのボカラを旅した際に遭遇した情景を描いた作品です

表紙写真について

新2号館の地下1・2階グランドギャラリーにある階段状の席。スクリーンを利用した講義で学生たちが座ります。



愛知工業大学同窓会支部結成のために必要とされる手続き

1. 支部結成発起人(氏名、卒業年、学科)
 2. 支部同窓生氏名(氏名、卒業年、学科、連絡先等)
 3. 支部則原案(見本を作成していますので、参考にしてください)
 4. 支部本部となる連絡場所…連絡先、住所、電話番号記入
 5. 正式に支部として承認されましたら、支部則に基づき支部長、副支部長、会計その他の役員を本部に届ける
- ※職場支部結成については、10名以上の同窓生が在籍していること

会員の皆様へ

ご住所や勤務先などの変更等がありましたらお知らせください。また、地域での同窓会活動の状況など皆様からの情報や、同窓会および会報誌『みずわか』に対するご意見も、お待ちしております。

※下記のメールまたはFAXでご連絡ください。

同窓会・会報誌『みずわか』に関するお問い合わせ、申し込み、ご連絡は **愛知工業大学同窓会事務局** まで

郵送 〒470-0392 豊田市八草町八千草1247

TEL FAX TEL 0565-43-1032 月～金 9:00～16:30 FAX 0565-43-1031

e-mail mizuwaka@aitech.ac.jp

※ご登録いただいた個人情報は同窓会に関する案内および大学から依頼された案内の発送のみに使わせていただき、本人の承諾なく第三者に開示することはありません。なお、個人情報の取扱いについては、HPIに明記した瑞若会個人情報保護ポリシーに準じます。

愛知工業大学同窓会誌(瑞若会会報) MIZUWAKA(みずわか)

■発行日/2015年12月
■発行/愛知工業大学同窓会
〒470-0392 豊田市八草町八千草1247
Tel.0565-43-1032 Fax.0565-43-1031
■発行責任者/水野 勝教

■編集/MIZUWAKA Vol.48 編集委員会
岩月 栄治、宇田 秀樹、内田 敬久、馬詰 恵伍、奥野 佳宏、倉橋 有希、五島 敬史郎、後藤 時政、佐野 泰之、渋谷 沙和恵、武田 亘平、立枝 孝之、津田 紀生(チーフ)、中野 寛之、西 裕之、西川 聡美、西脇 綾香、前田 賢、平松 誠治、松井 良介、柳瀬 浩史、山田 千代美(事務局)、横井 浩治
■印刷/株式会社 大東社 〒494-0003 一宮市三条字大平27 Tel.0586-62-1168 Fax.0586-62-1751

<http://www.ait.ac.jp/>

M I Z U W A K A

瑞若会会報
Vol.48

- 特集1 >>> 第21回瑞若会定期総会開催
- 特集2 >>> 新施設紹介「新2号館」他
- がんばるOB >>> 様々な分野で活躍するOB

第21回 「瑞若会定期総会」開催!

2015年6月27日(土)、
名古屋国際ホテルにて「瑞若会定期総会」を開催しました。
およそ200名が集い、
総会をばさんで学科別同窓会や懇親会の場で交流をはかりました。

各地域支部の代表が集まり、支部活動の報告や意見交換が行われた支部長会議に続き理事会が開かれ、事業報告や役員改選、会長選任などが行われました。合わせて奨学基金や同窓会オリジナルの日本酒発売についてなどの活動報告もされました。その後、学科別同窓会が開かれ、それぞれの学科の近況や最近の大学の動向などが伝えられました。

定期総会を経て、懇親会では瑞若会会長や後藤泰之学

長の挨拶、奨学基金の目録贈呈などがありました。乾杯が済むと場は一転して賑やかになり、参加者は談笑したり酒を酌み交わしたりしながら、会場はなごやかな雰囲気になりました。今回は、同窓会のオリジナル日本酒「瑞若」の第2弾ができあがり、そのお披露目も兼ねて岩月栄治事務局長(61D)と蔵元から説明があり、会場には試飲コーナーも設けられました。

(プログラム)

支部長会議	13:30~14:50
理事会	15:00~15:50
学科別同窓会	16:00~16:50
定期総会	17:00~17:15
懇親会	17:15~19:00



道家 秀男瑞若会会長(51A)
6年間務めた会長を辞して、ほっとしたような寂しいような気持ちです。今回も多く同窓生が参加してくださり、大変うれしく思います。今後、愛工大の名前が世界にとどろくように、同窓会のますますの発展を期待しています。



後藤 泰之学長
「ものづくり」を通して人間性豊かな技術者を育て、皆さんが誇れる大学となるよう、がんばっていきます。新2号館も完成し、5号館も建て替えを進めるなど環境整備にも力を入れています。ぜひ一度、キャンパスへも足を運んでほしいと思います。

瑞若会の会長と事務局長は新規交代



藤本 博史瑞若会新会長(59D)

土木学科の同窓会役員を務めており、4、5年前から愛工大の知名度をアップできるアイデアはないかと考えてきました。その1つとして同窓会の存在が大きいと感じています。より多くの人が同窓会に集うことで情報交

換や情報発信も活発になり、学外へも広がると思っています。そのためには多くの人に同窓会へ参加してほしいと願っています。まずは同窓会の存在をOBに意識してもらうことが大事です。また、興味のある催しを盛り込むなど、出席するきっかけ作りも必要かもしれません。自分自身も同窓会はお世話になった先生に会えるだけでなく、他学科の先生と話をするいい機会だと考えています。ぜひ、同窓生の皆さんに活用してもらえたらと思います。



水野 勝教新事務局長(63R)

今後、人口減少にともない大学自体が大変になると思います。大学あつての同窓会ですから、大学の発展に同窓会として協力していきたいと考えています。

同窓会への思い



大島 勝三さん(43M)
同窓会には数回参加していますが、懐かしい人と会って話ができるのを楽しみにしています。



推名 あゆみさん(H25CB)
雰囲気を見てみたいと思い、はじめて参加しました。幅広い世代の方々とお会いするのがいいと思います。



斎藤 誠紀さん(H21ER)
教員になり釧路にいたので、お世話になった先生にお礼を言い、仕事の話ができたかと思って参加しました。



倉部 愛子さん(H25CB)
大学へ行く機会がないので、今回は先生方とお会いできるのを楽しみにして参加しました。



前田 彩さん(H24TK)
同じ学科の同窓生とは異なる業種に就職し、さらに内勤なので会う機会も無く、今回は楽しみに来ました。



昨年引き続き、オリジナル日本酒を造りました。今年は常滑市の澤田酒造株式会社が生産した特別純米酒です。蔵元から半径2km以内の地域で減農薬で栽培した愛知県の酒米「若水」を全量使用し、古式伝承の道具や製法で手造り。仕込み水には知多の湧き水を使い、米の旨味を素直に引き出した、飲んで美味しく、食事と合わせて引き立て合う飲み飽きしない酒になっています。

「瑞若」購入先: 名植屋
東海市横須賀町四ノ割19
TEL: 0562-32-0006

旧カフェ&レストラン「セントラル」の跡地で建設が進められていた新2号館がこの春に完成しました。地上6階、地下2階の新校舎には、ロボットミュージアムやグランドギャラリー、アトリエ、研究室などが設けられ、主に建築学科と電気学科の学生たちが学ぶ場となっています。学生たちの案内で館内を紹介します。



新2号館が完成しました!

地下
1・2階



明るく開放感あふれる雰囲気の下1・2階

オープンスペースが多い

中央が吹き抜けになった地下1・2階のグランドギャラリーは、階段状の席があり中央のスクリーンを利用して作品の講評などに使われています。周囲にはアトリエがあり、地下1階には光が降り注ぐ製図専用のスペース、地下2階にはデスクスペースや過去からの建築模型を展示したコーナーもあり、建築学科の学生たちがいつでも利用できるようになっています。



可動式スクリーンが備え付けられたグランドギャラリーとアトリエ

1階

入口を入るとロボットが展示され、左側にはガラス張りになった研究室が並ぶロボットミュージアム。誰でもロボット研究の様子を外から見るができます。広いフロアは「ロボカップ」のときには会場にも使われます。1階の奥には、エコ電力研究センターのモニター室があり、館内の照明や空調を制御しています。



一般の方も見学できる

ガラス越しに見学ができるレスキューロボットの研究

「ここには先輩たちの優秀な作品が展示されていて、いつでも見られます」と語る楠川 充敏さん(大学院工学研究科博士前期課程建設システム工学専攻・H27FA)

「研究室にいるときは、声をかけてもらえれば説明もしますよ」と、ロボットの前に語る福島 滉希さん(電気学科電気工学専攻4年)



©光プロ

土地の高低差を利用して建てられた新2号館。南側には広いテラスもあります



3~
6階

明るい雰囲気



外からも中に人がいるのがわかる事務室

3・4階には建築学科の研究室、5・6階には電気学科の研究室があります。各階のロビーには、イスとテーブルが置かれ、異なる研究室の学生たちが交流できる場となっています。廊下はエアコンがないかわりに研究室の冷気を換気して利用できるエコな設計。照明は全灯LEDで、廊下やトイレには人感センサーが取り付けられるなど全館を通して省エネに配慮されています。



エコな設計

「ここで他の研究室の人たちとランチを食べたり、休憩したりします」と、栗田 茉奈さん(電気学科電子情報工学専攻4年)

1号館にアメリカカフェがオープン!

今年の秋にオープンしたアメリカカフェは、常時5種類のランチメニューが揃い、ボリュームたっぷりのランチは価格も1コイン(500円)と手頃。オープン初日から大勢の学生たちで賑わいました。



明るい雰囲気の店内

来年5月に新食堂誕生!

新食堂は、解体した5号館の跡地に建設し、1階にセントラル食堂、2階にマイティハウスが入る予定です。



2階

ゼミ室の他、事務室や更衣室があります。事務室も壁面や入口がガラスになっていて、入りやすい雰囲気です。隣には愛工大ではじめての設備になる女子更衣室があります。女子トイレも各階にあるなど、女子学生への配慮がされています。



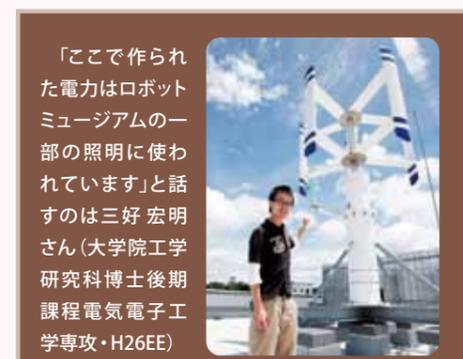
更衣室を案内しながら「実習で作業服に着替えるときなどは、ここを利用します。とても助かりますね」と、澤 瑞穂さん(大学院工学研究科博士前期課程建設システム工学専攻・H27FA)

屋上



新2号館屋上に設置された太陽光発電パネル

自然エネルギーを活用



「ここで作られた電力はロボットミュージアムの一部の照明に使われています」と話すのは三好 宏明さん(大学院工学研究科博士後期課程電気電子工学専攻・H26EE)

垂直軸型風車と太陽光発電パネルが設置されています。このような最新鋭の創エネ設備が大学に設置されている例はほとんどありません。

メディアショップCom・Comがリニューアル!

Com・Comがリニューアルし、さらに便利になりました。以前から取り扱っていたパソコンの周辺機器はもちろん、新たにWi-Fiルーター予約申込受付を開始。寝具等のレンタル、JRチケットや航空券の申し込み、保険の事故受付等はHPからの手続きも可能です。原動機付き二輪車の取り扱いや下宿案内も以前より継続して行っています。愛工大のロゴやエンブレムの付いたボールペン、マグネット、クリアファイル、Tシャツ、ポロシャツ、パーカー等も販売しており、贈呈用、私用、サークルや部活用など、様々な用途に利用されています。



AITプラザ2階にあるCom・Com



旅行や保険など学内で申し込めるのは便利

北陸支部



支部長 浦田 竹昭 (48E)

昨年支部総会において、支部長を務めることとなりました。愛工大という同窓の共通認識のもと集うことに、青春のふるさと学舎と同窓の絆をあらためて感じています。新潟、富山、石川、福井の四県からなる広いエリアをもつ支部ですが、今年も同窓生交流会開催時に、役員会並びに懇親会を開催し、同窓の親睦を図りました。若い人も年配の人も、縦や横の友も、まずは足を運び参加してみてください。必ずや得るものがあると確信しています。皆さん方のご参加をお待ちしています。

【連絡先】

- ▶ 浦田 竹昭：携帯090-8268-6795
〒936-0835 富山県滑川市開520
- ▶ 袖野 貴義 (事務局長・59B)：携帯090-2099-5846
〒921-8161 石川県金沢市有松4-21-22

関東支部



支部長 水野 政光 (45E)

昨年「春の隅田川総会」は関東支部会員35名、後藤淳総長はじめ来賓、関係者を含め総勢45名が参加し、有意義な支部総会となりました。また、秋に開催された関西支部主催合同視察・講演交流会も実り多き行事でした。

本年に入り昨年支部総会で推挙された関東支部後継者、小山泰一(50R)、保浦光宏(50C)、石川定雄(57R)の3氏が中心となり、新年会、春の会、暑気払いを計画実行。本年度のメインイベントとして「12月5日羽田空港 JAL 整備工場の見学会と支部総会」を計画し、若返った幹事会の皆様と実行に向け努力して参りました。今後とも、会員の皆様のご意見、ご参加、ご協力よろしくお願いします。

静岡県支部



支部長 今村 春幸 (47R)

昨年第9回支部総会において支部長に選任されました。よろしくお願いいたします。任期3年の間、種々の行事を考えてゆきたいと思っています。県内にお住まいの会員の皆さん、会に参加して親睦を深めましょう。本年9月26日(土)のAITオープンフォーラム開催時に合同の懇親会も行いました。毎年この時期に開催されますので愛工大瑞若会ホームページをご覧ください。12月には前静岡大学工学部電子工学科教授以西雅章氏(47R)を講師に迎え、支部講演会を企画しました。

【連絡先】

- ▶ 今村 春幸：電話053-925-2843 / 携帯090-6585-2994
- ▶ 竹田 昌治 (事務局長・42E)：携帯090-8325-3778

長野県支部



支部長 熊谷 弘 (H6K)

我が国の今の課題に、人口減少問題・少子高齢化があげられます。また、社会構造・経済環境の変化に伴い、最も重要な「教育」を取り巻く環境にも変化があります。そんな中でも、愛工大がものづくり教育を核に、社会をリードする人材を育てていくためにも、瑞若会は重要な位置付けにあるのではないのでしょうか。

長野県支部は発足したばかりの支部ですが、目的・意義を明確にしながら信州の同窓生が「郷土」「学科」「年代」「業種」「個々」の横の繋がりと大学側との繋がりがもてるように、企画をしていきたいと思えます。青春時代、愛工大で学んだ同志というだけで親密感を抱きます。前述では堅いことを言いましたが、まずは愉しく出逢いを大切にしながら、支部のネットワークを広げて、可能性を見つけていきたいと考えております。信州の同窓生の皆さん、よろしくお願いいたします。

岐阜県支部



支部長 久富 政俊 (45K)

会員の皆様のご理解とご協力をいただきながら、1996年(平成8年)7月6日の第1回支部総会以来、昨年9月の第7回支部総会まで無事に開催することができました。交流会は年に数回行っていますが、参加人数や参加者の高齢化が課題となっています。3地区(岐阜市、西濃、中濃)にわけて行っている交流会を、今後は東濃や飛騨地区でも開催を呼びかけ、課題の解決に結びつけたいと考えています。ぜひとも、多くの会員の参加を期待したいものです。

【連絡先】

- ▶ 中西 保幸 (事務局長・51E)：携帯090-3562-5501
FAX058-239-9574 (一松電気工業株式会社)

三重県支部



支部長 松林 巧 (50R)

- <1>2014年(平成26年)度の行事等について
 - ・瑞若会三重県支部総会(9月13日)の反省会
 - ・幹事会・忘年会の開催(11月26日)
- <2>2015年(平成27年)度の行事等について
 - ・幹事会・役員会について
 - ・視察(案)について
 - ・忘年会

【連絡先】

- ▶ 松林 巧:HFD01722@nifty.ne.jp
- ▶ 国安院 章良(事務局長・55A)：a-kokuanin@refocs.co.jp

関西支部



支部長 藤田 隆 (52E)

関西支部では奇数月に開催する定例会でイベントの企画や仕事上の相談もしています。過去のイベントでは母校の先生の講演や思い出のキャンパス見学会をはじめ、中・四国支部との合同意見交換会と銘打った忘年会や全支部の同窓生を対象にした東京スカイツリー見学会を企画運営しました。スカイツリー見学会では構造設計を担当した建築士の方に講演いただき、東京タワーから50年を経た技術革新についてテクノロジーの視点で検証を行い、工科大学にふさわしい中身の濃い企画となりました。今後とも、魅力ある企画を提供していくとともに他支部との交流の場も広げていきたいと思っております。

【連絡先】

- ▶ 藤田 隆：tf168@shinwa-engineer.co.jp (勤務先)

中国・四国支部



前支部長 児玉 龍夫 (50M)

今年、発足して丸18年になります。設立以来、年2、3回の交流会を各地区で開催し、会員相互の親睦を深めて参りました。ただ、回を重ねるごとに顔ぶれが固定されて来ており、新たな趣向として、関西支部と協力して合同交流会を神戸と鳥取で開催しました。多くの会員の参加があり、賑やかな交流会ができたのではないかと思います。今後も続けることができればと思っています。今年は第7期に入り役員を改選し、新支部長のもと新たな会員の発掘に努め、大学と共に発展していく所存です。よろしくお願いいたします。

※2015年(平成27年)9月12日の支部総会において、役員を変更しました。

支部長 小林 優貴秀 (52A)
事務局長 木佐 貫保 (49M)

出身県別同窓生数 (2015年4月現在)



AIT OPEN FORUM

2015年度のAITオープンフォーラムが3会場で開催されました。

- 第111回** 2015/9/19
会 場：四日市都ホテル
テーマ：絵に隠された意外な謎とその答えを知ろう
～描画実技と映像とCGの歴史～
講 師：情報科学部情報科学科 鳥居一平 教授
- 第112回** 2015/9/26
会 場：ホテルクラウンパレス浜松
テーマ：「ふー」っと一息で健康・病態診断?!
講 師：工学部応用化学科 手嶋紀雄 教授
- 第113回** 2015/11/7
会 場：岐阜グランドホテル
テーマ：ロケット技術の現状と未来
講 師：工学部機械学科 今野彰 教授

絵に隠された意外な謎とその答えを知ろう

～描画実技と映像とCGの歴史～

講師：鳥居一平 教授

「絵画には、ある事物を直接的に表現するのではなく、他の事物により暗示的に表現する寓意 (Allegory) が隠されています。作者の生きた時代背景や作者を知ることは絵に隠された寓意を理解し、新たな絵画の魅力発見に繋がります。こうした視点から、絵画の見方、概念の作られ方、絵の描き方についてお話しします。現代社会では、実用性のあるもの、娯楽や生活に欠かせないものなど様々な目的をもったコンテンツが生活に取り入れられています。人類は自分たちが獲得した知識をメディアに書きしるし、他の人に伝えてきました。伝えられた人はそこに新たに獲得した知識を書き込み、別のメディアに載せて多くの人に伝えてきました。こうして多くの問題を解決して人類は生き延びてきたのです。本講座は、ルネサンス時代に絵画に込められた人々の思いを読み解くことから始め、描画テストによる自己分析を行います。後半は、現代社会でCGが果たす役割や、生活にコンテンツがいかに取り込まれ役立っているかについてお話しします」と、事例紹介を交えて大変興味深い講話がなされました。



ホームカミングデーを開催!

同窓生の方々に大学へ訪れていただく機会として、大学のオープンキャンパス開催時の2015年7月25日・

26日に合わせ、同窓生の方々をお迎えするため、ホームカミングデーを実施しました。

今年は、25日に土木工学科の開設50周年祝賀会、26日に建築系学科の新2号館お披露目会がそれぞれ開催され、多数の方々をお迎えすることができました。次回、2016年は、10月中旬の大学祭に合わせて実施する予定です。



建築系学科同窓会(不器会)

50名が参加して11時から同窓会を開き、オープンキャンパスを見学したり、愛和食堂等での学食ランチを楽しみました。その後、新2号館に場所を移し、梶田光太郎新会長(52A)と駆けつけた恩師の挨拶に続き、懇談会を開催。最後に新2号館のお披露目と旧2号館のお別れを兼ねた見学ツアーを行いました。旧2号館は引越しの後でがらんとしていましたが、学生時代の記憶がよみがえったのか、あちらこちらから歓声があがり、なごやかなうちに会を終了しました。

佐野 泰之(H6A)

土木工学科開設50周年記念祝賀会

祝賀会と慣れ親しんだ旧2号館の解体前の見学を行い、来賓や卒業生の方々、教職員を合わせて103名が出席しました。研究室に貼ってあったポスターに「あれは私たちが貼った!!」という声や、卒研で作った30数年前の供試体を実験室で見かけて懐かしさを感じていらっしゃる卒業生の姿も。

7号館3階の土木工学科のこれからの研究室・卒研室を見学して、変わりゆく愛工大を感じていただけたと思います。

岩月 栄治(61D)

退官された先生を囲んで同窓会を開催!

山田 諄先生の退官と誕生日を祝って



前列は 岡田先生ご夫妻、後列右より戸谷、水野政光(45E)、平松秀和(45E)

人生の教師、岡田 静雄先生ご夫妻と

基礎教育センター教授だった岡田先生を囲んで、電気学科卒のメンバーで会を開きました。ご参加くださるだけでもありがたいのに、ご夫妻でご参加くださるとは誠にありがたいこと。少し緊張して会場へ着くと、すでにここにこしながらお揃いで席にいらっやいました。「失礼しました」と詫言ながら、早速、冷たいビールで乾杯。先生の奥さまは我々70年卒の名幹事で、幹事の平松君の高校時代の恩師でもあり、話が弾みました。

先生は大学でもやさしく解りやすい授業をしてくださいましたが、さらにやさしくなられ、終始にこやかにいらっやいました。我々の旅行にも参加してくださいと、平松様一行に付いて行くだけです」という先生の謙虚なお言葉に、人生はこうあるべきと感動しました。

戸谷 靖夫(45E)

※岡田先生を囲む会に参加ご希望の方は、平松秀和幹事：携帯090-2266-5880までご連絡ください。



落合 鎮康先生と昔を懐かしんで

1970年(昭和45年)電気学科卒の有志による落合先生を囲む会は、「やあ、やあ」と気安い挨拶で始まりました。この気安さは、私たちと助手の立場で電気実験のアシストをされていた先生が、電気に関する激論を交わした情熱の戦友だからだろうか。卒業後も電気学会誌で先生のお名前を見つけるたびに陰ながら応援してきました。

「グリーンロードのなかった時代は通学に苦労した」「道路で手をあげたら当時の学長(後藤鉦二先生)のお車が止まってくださった」など懐かしい話が続出。先生の研究資料の説明や今後の母校のあり方、創造性豊かな人材の育成についてなど話が尽きず、楽しい時間があつと言う間に流れていきました。最高に眺めの良い席を用意してくださいと感謝して2次会へ席を移しました。

戸谷 靖夫(45E)

※落合先生を囲む会に参加ご希望の方は、平松秀和幹事：携帯090-2266-5880までご連絡ください。



津田 紀生(H4R)

親子で愛工大に!

小澤 晃弘さん(60D) 啓司さん(都市環境学科土木工学専攻4年)

啓司さんが土木工学専攻に進んだのは、お父さんの影響が大きいと言います。「父の仕事を見ていて土木に興味を持ったからです。ただ、愛工大を受験することは自分で決めました」。入学式で卒業以来はじめて母校を訪れたという晃弘さんは、施設がかなり充実していると思ったそうです。啓司さんも「耐震実験センターや地域防災研究センターなど関連施設が整備されていると感じました。隣接する海上の森など自然豊かな環境や、学内に樹々が多いのも気に入っています。また、いろいろな学食があり選べるので学校へ来るモチベーションもあがります(笑)」。



ご自身の学生時代と比べて施設もさることながら、学ぶ内容も変化していると語る晃弘さん。「土木のレポートなどを見ても、自分の学生時代より難しいことをやっているようでびっくりしました。専門分野での経験を生かして、いろいろアドバイスをすることもありますが…」。啓司さんにとっては、先生や施設のことなど共通の話題があるので、話をしやすくなったそうです。「就職のことなども相談しています」。大学入学までは放任主義であまり関わらなかったという晃弘さんですが、「同じ大学かつ同じ分野へ進んだことで話す機会が増え、家でも長く話すようになりましたね」。

沖野 浩章さん(62K) 琴音さん(建築学科建築学専攻4年)

高校2年のときにお父さんの提案で家族揃って愛工大祭を訪れ、雰囲気良く楽しそうな印象を受けたという琴音さん。パンフレットではわからないこともあるので、誘ってくれたお父さんに感謝しているそうです。浩章さんも20数年ぶりに母校訪問ができ良かったとか。「建築が面白そう」というお父さんのひと言から建築学科を選び、推薦入試を受けることに。「とくに強くすすめたわけではありませんが、母校なので信頼はおけると思っていました」と浩章さん。同じ大学へ進んだことで、話をする機会も増えたそうです。「マイティは父の時代からあるので学食の話で盛り上がりやすくなります。寮を訪ねたときの写真を見せたら、父も1年間、寮に入っていたので、懐かしがってくれました」。3年の夏に大学から中国訪問をした琴音さん。「参加をすすめてくれたのも父でした。おかげで、学科の異なる友人もできました。学生生活や就職についていろいろな話をできるのも、同じ大学だからかもしれませんね。良かったと思っています」。



青山 竜一さん(62A) 楓さん(建築学科住居デザイン専攻4年)

就職率が良く、写真を見てキャンパスの雰囲気が良さそうだという愛工大を選んだ竜一さん。同じ豊田市に自宅があり、車通学できるのも魅力だったそうです。ただ、楓さんへ愛工大をすすめたことはなかったそうです。「高校に愛工大卒の先生がいて、就職率が高いことや女子推薦があることなどを聞いたので、愛工大を進学先を選びました。入試の志望理由も父が卒業生であると言ってくれましたし…」と楓さん。同じ学科へ進んだことで、実習の道具などもお父さんから譲ってもらったそうです。建築学科には同窓生の中から教員になった人もいるので、親しみやすい面もあるとか。「建築の同業者が集う団体には愛工大卒の人も多いですよ」と竜一さん。最近では後援会の理事として、2ヶ月に1回位の割合で母校を訪れているそうですが、「当時から比べると女子学生も多く、新しい校舎が増えるなど、雰囲気はすっかり変わってしまった印象がありますね」。



応用化学科の同期で同窓会!



2015年5月30日(土)に『応化昭和60年卒業同窓会(卒業30年、経年変化点検)』と題しまして同窓会を開催しました。「経年変化点検」に関しては、19名に「要修理」の判断がくだされました。容貌の変化、退化は凄まじく30年という歳月は残酷です。

先生(46C)をはじめ、多くの先生方から伝授していただいた魂を、我々も継承し続けてゆきます。そして、「メイド喫茶」に頼ることなく、「素敵なおじ様」と呼ばれるよう、皆で誓い合い、再会を約束しました。

玉置 徳人(60C)

先代から受け継いだ会社を 新たな戦略で発展させる



岩山 隆司さん (61K)
マウンテンコーヒー株式会社 代表取締役社長

スーパーから自社の営業マンへ

「父が1967年(昭和42年)に事業を始めたんです」と言う岩山さんは、コーヒー豆の製造から卸売・店頭販売、喫茶店の開業支援などを行う会社の2代目。11年前に社長として事業を引き継ぎました。

子どもの頃から会社を継ぐのだろうと思っていた岩山さんですが、卒業後は学生時代からアルバイトをしていた大手スーパーに就職します。「卒論で『缶ビールの販売促進効果』についてアンケートをコンピュータ解析したこともあり、販促がやりたくて入社したのですが、最初は仕入れや値札付けが主な仕事でした」。

2年が過ぎた頃、当時、東京にあったマウンテンコーヒーの営業所を手伝うことになりスーパーを退社。「東京の喫茶店は、名古屋で定番のモーニングサービスが無く、営業の仕組み自体が違い、ノウハウが通用しなくて最初はとまどいました」。そんな中、岩山さんはコーヒーポットの宅配をオフィス向けに広めるなど、従来の喫茶店向け卸売以外の道も探りながら5年近く東京で過ごしました。「ちょうどバブルの頃で華やかでしたね。でも、深夜営業の得意先もありましたので、遊ぶというより夜中まで仕事をしてきた記憶があります」。

卸売中心の事業から 舵を切って

名古屋へ戻った岩山さんは、卸売はこの先、難しくなるだろうと思い、卸売の割合を減らす決断をします。



本社1階の販売コーナー

代わりにコーヒー店の開業支援へと事業をシフトしていきました。本社の隣りに開いた直営店「CAZAN珈琲店」をモデルにした店づくりです。「CAZANを30~50代のインテリジェンスな女性をターゲットにした店にし、同じような店を開きたいというオーナーの方に対して開業支援をしています」。コーヒーを単なるモノとして取り扱うのではなく、

人・モノ・空間とノウハウを合わせて売ると言う岩山さんのアイデアで、現在はCAZANグループ店が40店舗になるまで拡大しました。

女性をターゲットにしたCAZANに対し、男性向けの店も展開したいと、今年4月には100席規模の店を市内に4店舗もつ喫茶店グループを子会社化し、その社長も兼任しています。「料理人が作るきちんとした食事があり、男性客に人気がある店だったんです」。傘下に自社の方向性に即した店を入れるのも事業展開の手法だと考えている岩山さんですが、従業員は一気に倍近くに増え、責任の重さを感じているそうです。

環境に配慮したコーヒーを販売

岩山さんが最近、力を入れているのは、お店のメニューにも加えた「サスティナブルコーヒー」。サスティナビリティ(持続可能性)に配慮し、化学肥料を使わず自然環境に配慮した農園で育てたり、生産者の人権保護や収入の安定を図るなど生産から流通まで環境や人々の生活を良い状態に保つのを目指して作られるコーヒーです。

きっかけは2010年(平成22年)に名古屋で開催された「COP10」でした。開催に先立ち、役員をしていた組合へサスティナブルコーヒーを広めたいという要望が寄せられ、担当者として準備に奔走したそうです。「地球環境にコーヒーを通して役立てるのはすばらしいと思いましたね」。

現在は事業の他にも、生涯学習センターや大学のゼミなどでコーヒーの魅力を伝えるための講演を行ったりしている岩山さん。その折にもサスティナブルコーヒーについてふれ、より多くの人に知ってほしいと考えているそうです。

「サスティナブルコーヒー文化を広めることは、ライフワークとして取り組んでいきたいと思っています」。



本社の隣りにある「CAZAN珈琲店」

可能性を求めて転職し 充実した毎日を送る



麻生 知沙さん (H12B)
有限会社ともだち所属 MC、レポーター

CAD設計からレポーターへ

ガウディにあこがれ建築工学科へ入学。建築学の難しさに一度は落ち込んだ麻生さんですが、曾我部博之先生のゼミで構造設計・計算を知り、CADの面白さに目覚め、設計コンサルタント会社へ就職します。得意のCADを使い、仕事は充実。「ただ、次から次へと仕事が増えて、休み無く働いていましたね」。

そんな日々を送る中で、ふと「今しかできないことをやりたい」と、転職を考え始めたそうです。

接客業を中心に就職情報誌で探していたところ、目に留まったのがラジオ局のレポーター募集記事でした。試しに受けてみごと採用になり、転職します。

ひと口にレポーターと言っても、ラジオカーに乗り、取材先を探して出かけ、現場では電波を飛ばす機器の準備をし、取材をして放送するという全てを任される大変な仕事です。「電波を飛ばす資格取得のために受けた研修が楽しかったですね」。理系だったので内容もすんなり入ってきて、講師からもほめられたとか。

インタビューの難しさ楽しさを知る

ところが、実際の取材では苦勞の連続。「取材拒否にあつたり、レポートがうまくいかなかったり、元気ないとディレクターに言われたり、できないことばかりでした」。

この仕事に手応えを感じるようになったのは、無口だった取材相手の方が質問をきっかけに急に饒舌になって話をしてくれたという経験を何度もするようになってから。

今では、イベントやトークショーの司会がメインの仕事になるほどインタビューは楽しいと語る麻生さん。「有名人



イベントでの司会

の方への質問で引き出した話に、観客の皆さんから歓声が上がったときなど最高です。舞台と観客席をつなぐ役割をしたいと思い、うま

くいった瞬間ですね」。

さらに現在の仕事には関係ないように思える大学での専門知識のおかげでうまくいったことも自信に。「女性建築家のインタ

ビューに呼ばれたことがあり、建築業界のこともわかるので話が盛り上がりました」。スタッフの方からも目のつけどころが違うと好評だったそうです。

趣味も生かしつつ新たな挑戦

最近では趣味で始めた登山を仕事に生かしている麻生さん。「4、5年前に誘われてから登山にはまってしまいました。ラジオでオススメの山や登山装備について話をする機会を得たのも趣味のおかげですね。登山を始めて環境にも興味がわき、エコ関連の仕事もさせていただきました」。



趣味で始めた登山

フリーで仕事をする場合には、他の人たちとの差別化が必要。趣味の登山も建築を学んだことも差別化につながっていると言います。

次の目標は、若手を育てる講師のような仕事だそうです。きっかけは、地域貢献事業の一環で、子どもたち相手に課外授業をしたこと。テレビやラジオの収録を身近で見ることができない地域へ出かけて行き、レポーターやカメラマンなどを体験してもらうもので「最初は敬遠していたレポーター役も、教えたあとには将来やりたいと言うなど、子どもたちが変わっていく姿にやりがいを感じますね」。

また、自らの経験を後輩たちに伝えていきたいと語る麻生さん。愛工大でオープンキャンパスの司会をしたときに、女子学生から「どうやったら司会の仕事に就けますか?」などと質問を受け、その思いをもったとか。「様々な可能性があり、あきらめたらもったいないですから」。

HOT VOICE

営業技術者としてのやりがい

西岡 直樹さん (H16M)



学生時代から続けているスノーボードの練習場にて(中央が本人、両側は研究室の同級生)

富士エンジニアリング株式会社(富士精工株式会社の子会社)は、顧客からの支給図面または自社設計図面をもとに協力会社に製作依頼をし、自社で検査機能を持ち品質保証をする会社です。現在はダイキャスト金型製品・メカトロ設備のものづくりに携わっています。主な業務は図面より加工工程を考え、協力会社の設備に合わせて製作依頼をかけること。そして、顧客の必要とする要点を確実におさえ、流出不具合ゼロを目標に品質保証体制を強化することです。

営業技術者として受注活動をしなが、品質のまとめなど、全ての業務に携わっています。加工で顧客から求められた精度を現地現物で確認できる点や、支給図面に対し原価低減案などコスト削減提案をしながら協力会社でも作りやすい図面に変更できたときなどにやりがいを感じます。家族に感謝をしながら、子どもの笑顔に癒され、仕事に励んでいます。

7年前に合成樹脂商社の親会社から、株式会社マナベ製作所へ常務取締役として出向し、3年前から代表取締役社長を務めています。1966年(昭和41年)12月設立創業した合成樹脂切削加工業の会社で、わずか16名の小さな技術集団です。顧客から発注された図面をデータ化しマシニングセンターで切削加工しており、主に大型発電機用の絶縁部品を板材料から削り出し加工しています。コンピュータ制御加工が主とはいえ、まだまだ職人仕事の部分が多く、高い技術力が納入先に認められ表彰を受けたこともあります。また、顧客の末端ユーザークレームを助ける形で、短納期対応に全社員が取り組んで完納したときにはとても感謝されました。大量生産できない加工業として生き残ってきましたが、今後は機械加工の速さと職人仕事のきめ細やかさを融合し、ここでしかできない「おもてなし」仕事を確立してパトナタッチしたいと考えています。

次世代へ引き継ぐために

蔵本 勝さん (53K)

7年前に合成樹脂商社の親会社から、株式会社マナベ製作所へ常務取締役として出向し、3年前から代表取締役社長を務めています。1966年(昭和41年)12月設立創業した合成樹脂切削加工業の会社で、わずか16名の小さな技術集団です。顧客から発注された図面をデータ化しマシニングセンターで切削加工しており、主に大型発電機用の絶縁部品を板材料から削り出し加工しています。コンピュータ制御加工が主とはいえ、まだまだ職人仕事の部分が多く、高い技術力が納入先に認められ表彰を受けたこともあります。また、顧客の末端ユーザークレームを助ける形で、短納期対応に全社員が取り組んで完納したときにはとても感謝されました。大量生産できない加工業として生き残ってきましたが、今後は機械加工の速さと職人仕事のきめ細やかさを融合し、ここでしかできない「おもてなし」仕事を確立してパトナタッチしたいと考えています。



社員と現場で話をする蔵本さん

会社での日課は朝のトイレ掃除です。トイレは会社を正直に表します。清潔で綺麗に保つことで社内に清々しい気持ちが湧いてくると感じています。



日課のトイレ掃除

仕事、ボランティア、趣味に励む

高田 武弥さん (H20MM)

リンナイ株式会社に入社して5年目になります。現在は大口工場において、生産現場にガスやエアを過不足無く供給するため、空調機の更新計画の検討や実行などのインフラ業務や全設備の管理に携わっています。熱機器は人々の生活水準向上につながると考えていますので、国内外を問わず工場の新設や再構築が行われる際に貢献できるよう、知識とノウハウを蓄積するべく、毎日の業務に励んでいます。



友人を名古屋ドームへ招待(左端が高田さん)

プライベートでは、在学中からマングローブの植樹をするNGO団体「ikaw-ako」*の活動に参加しています。他にも海外旅行、バイクのメンテナンス、スノーボードなども学生時代からの趣味で、チャレンジ精神で新たにサーフィンと車のメンテナンスも始めました。



友人を訪ねてタイを訪問

*URL: <http://ikawako.com/>

退職後は農業と間伐ボランティア

立松 英昭さん (41R)

農業に従事して15年になります。もともと妻が子育てをしながら父の後を継いで米作りをしており、定年扱い退職後の57歳から一緒にやり始めました。4.8アールの水田ではうるち米ともち米を、0.5アールの畑では自家消費用に大根、トマト、ブロッコリーをはじめ約20種類の野菜や、みかん、いちじく、さくらんぼなどの果樹と花などを育てています。農業は、工業製品の様に原料と設備があれば何回でも結果が出せるわけではなく、1年1回しか結果が出ず、天候、水、時間が必要です。植物は愛情を込めて手を掛けただけ素直に返してくれるのでやりがいを感じます。



草刈りの機械を背に



夫婦で水路の補修

他にも一般財団法人 実践自然保護団体「日本熊森協会」*で、庄内川源流の人工林の間伐ボランティア活動をしています。リタイアされた同窓生や後輩の皆さん、ぜひボランティアに参加してください。

夢は愛西市に農機具メーカーの研究所を企業誘致し、高齢者の圃場を利用して自動無人運転の農機具を開発してもらい、少子高齢化に対応できるような農機具が世界に行き渡るようになることです。

*URL: <http://kumamori.org/>

創部50周年を迎えて!

すでに大学や同窓会が相次いで50周年を迎え、クラブの中にも創部50周年という歴史ある部があります。その中から、フェンシング部と硬式野球部をご紹介します。

フェンシング部



フェンシング部OB会長 清水 茂敏 (52K)

愛知工業大学フェンシング部は1962年(昭和37年)4月に創部し、2012年(平成24年)4月に創部50周年を迎えておりました。諸事情により記念行事の開催ができておりませんでした。この度、創部50周年記念パーティーを開催するのはこびとなりました。この節目の年を迎えることができましたのも、ひとえにOB・OGの皆様方をはじめ、関係者の皆様方のおかげと感謝の念に耐えられません。この50年、数々の全国優勝、日本代表輩出をしてきた伝統あるフェンシング部を、今後もOB・OGの皆様方と現役学生とが協力し、60周年、100周年へと発展する様、OB会長の職を全うする所存です。



フェンシング部主将 大野 仁弘 経営学科 スポーツマネジメント専攻3年

創部50周年という節目の年を迎えることができたのも、ひとえにOB・OGの皆様方をはじめ、関係者や両親のおかげです。昨年は思うような成績を残すことができませんでしたが、今年では大会上位入賞を狙って、練習を試合の結果に結びつけたいと思っています。世代交代をした部は、新入生の加入もあり活気があります。新体制の部でお互いを意識しあい高めあっていきたいです。応援して下さるOB・OGの皆様方をはじめ関係者や両親のためにも、部を発展させるために、より一層練習に励み、一致団結をして、良い結果をご報告できるよう部員一同、日々精進していきます。

硬式野球部



硬式野球部OB会長 安江 敬一 (43R)

早50年も昔、私の学生時代は若水町に校舎があり、硬式野球部をスタートするには不可能な環境でしたが、後藤初代学長の肝入りで今は亡き川合監督の指導のもと、三好町の広場を活動場所として立ち上げた硬式野球部は50周年を迎えました。当時は石ころ拾いやグラウンド整備から始め、主な練習は筋力トレーニングでしたが、創部1年で3部から1部へと昇格できたのは夢のようでした。現在は大学のソフト面、ハード面の目を見張るような発展に伴い環境整備もされ、卒業生一同の大きな自慢になっており、その中で野球ができることはうらやましくも感じます。昔は昔、現在とは違う…確かに違いますが、人間が多数集まって何かの競技を行うことは、団体競技である以上、時代で変わることは無いと思います。仕事において同僚がお互いのポジションと力量を考えながら進める力をつけるには、野球は最高のスポーツだと思います。現代社会は、気力、体力の要らないものはありません、まずは継続です。現役の学生たちには最後まで気力一杯、体力一杯がんばってもらいたいです。



硬式野球部主将 水口 和稀 経営学科 スポーツマネジメント専攻4年

50周年という記念すべき年に自分自身、主将という立場で迎えられるに誇りに思うと同時に、結果が求められるという責任感も少し感じます。近年の硬式野球部は2部に低迷しているのが現状です。昨年はあと一歩というところで涙を流しました。自分自身とても悔しいシーズンでした。あの悔しさを糧にチーム一丸となって日々の練習に励んでいます。2部で優勝、入れ替え戦という舞台にたつ、そして、2勝して壁を越えられるよう精いっぱいがんばりたいと思います。50周年という記念すべき年に大学側、OBの方々、応援して下さる人々の期待に応えられるよう、愛工大硬式野球部が再び1部で新しい歴史を作っていくために全力で勝ちにいきたいと思います。

活躍する!卓球部 全国でも屈指のレベルを誇る卓球部が、今年も数々の優秀な成績をおさめました。



2015年 世界卓球選手権蘇州大会 (写真提供: ニックタクニュース)

世界卓球選手権で銀メダル獲得!

2015年世界卓球選手権蘇州大会のミックスダブルスにおいて、吉村真晴選手(経営学科スポーツマネジメント専攻4年)と石川佳純選手(全農)が38年ぶりとなる銀メダルを獲得しました。

*吉村選手は2016年リオ五輪男子卓球代表メンバーに内定しました。



平成27年度前期日本卓球リーグ広島大会 (写真提供: 日本卓球リーグ実業団連盟)

日本卓球リーグ広島大会で優勝!

平成27年度前期日本卓球リーグ広島大会(広島市東区スポーツセンター)において、学生チームでは史上初の快挙となる優勝を成し遂げました。



第85回全日本大学総合卓球選手権大会

全日本大学総合卓球選手権大会で優勝!

愛媛県武道館で開催された第85回全日本大学総合卓球選手権大会・団体の部(インカレ)でみごと優勝しました。



◆現場演習に重点を置いた教育

教育実習演習や理科教育法などを教える長谷川先生は、主に教員を目指す学生たちを指導しています。中でも力を入れているのは教育交流事業で、高校の協力も得て現場へ学生を連れ出しに行くものです。

「年6回、理科教育法の受講者(応用化学科3年生)を授業の一環で高校へ連れ出します。そのためにカリキュラム編成を特別に2時限続きにしてもらいました。2010年(平成22年)度後期から実施していますが、高校側も次の世代を育てる必要性に共感して受け入れてくれます」。

応用化学科以外の教職課程で学ぶ1年から3年の学生も参加できる現場演習に、「大学コンソーシアムせと」の協働プログラムがあります。2012年(平成24年)度から3年間に渡って瀬戸市立中学校へ学習支援指導員として学生を派遣しました。今年と来年も同様のプログラムの実施が決まっているそうです。

教職課程の講義は、1年では150名余が受講しますが、4年では30~40名ほどになります。「3年までの現場演習により学生自身が教員に向いているかを判断し、教育実習のある4年では本気で教員を目指す人のみが残ります。その結果、教育実習受け入れ高校側の負担も減ります」。

◆「生徒を構う」を大切な教えにする

教育現場での演習や教育実習を通して、長谷川先生が学生たちに一番に伝えるのが「生徒を構え」ということ。その背景には、先生が高校で生物の教師をしていたときに教育実習生を受け入れた経験か

ら。「実習生は授業が不安なため、その準備ばかりしていて生徒とふれあうことが少ないと感じたからなんです」。

生徒とコミュニケーションをとり信頼関係を築くことは、教師になるための必要な資質です。「空き時間や部活動などでなるべく生徒とふれあって理解しておくことで、個々の生徒の反応が予測でき授業中に余裕が生まれます。例えば、どの生徒にはどのような質問をすればいいのかという点にも配慮ができるようになります」。

こうした指導の効果もあり、教育実習中に巡回指導に行くと、受け入れ先の高校からも好評価をもらうそうです。「講師として来てほしいという要望もありますね」。



高校教員採用試験に合格した学生たち

研究報告書

◆良い教師を現場へ送り出したい

現場演習以外には、教育談話会を開催。高校教師を講師に招き、教師としての心構えなどを伝授してもらったり、質問したりできる機会を設けています。「なるべく若手の教師や本学卒業の教師を招いています。学生には身近な存在であり、近未来の自分の姿を重ねやすいからです」。

また、土曜日の午前中には自主ゼミとして教職ゼミを行っています。採用試験対策を兼ねており、過去問を解いたり、一般教養を学んだりします。「教育実習に行ってから試験対策をしていたのでは間に合わないと考えています」。

こうした取り組みによって、2011年(平成23年)度以降、毎年、現役で高校教員採用試験に合格。「現役合格者を増やしたいですね。育てがいのある学生も増えていますので、1人でも多く志の高い教師を現場へ送り出したい」と長谷川先生は語ります。

教員を目指す学生を現場へ連れ出し

生徒と関わる大切さを教える

長谷川省 教授

基礎教育センター総合教育教室



◆分散人工知能で進める研究

マルチエージェントシステムを研究テーマにしている伊藤先生。与えられた条件(環境)の下で自ら考えて行動する主体をエージェントと呼びますが、複数のエージェントが相互に依存してできているのがマルチエージェントシステムです。

具体的には、人工知能(AI)を備えたロボットやソフトウェアプロセスの協調動作の仕組みを研究しています。

応用として、複数の人工知能で1つの問題を解決する分散人工知能を駆使し、コンピュータ上に再現した災害やサッカーなどを題材として、シミュレーションを行います。例えば、災害シミュレーションでは、災害現場を想定し、市民が安全に逃げるためにはどのような方法があるのか、ロボットを安全に現場へ送り込み確実な消火活動をさせるにはどうしたらいいのかなど、複数のエージェントを相互作用させたシミュレーションにより解決方法を探していきます。

◆ロボカップで競うのも研究

研究を進めるための仕掛けの1つとして開催されているのが「ロボカップ」です。2050年までに人間のサッカーワールドカップ優勝チームに勝つ自律型ロボットチームを作るという壮大な目標をかかげ、人工知能やロボット工学の研究を推進し、技術力を高めながら、その成果で社会貢献を目指していくプロジェクトです。

ロボカップは自律移動型ロボットによるサッカー競技会から始まったもので、実機部門とシミュレーション部門からスタートしました。

学生たちと準備に忙しい

伊藤暢浩 教授

情報科学部情報科学科

現在は「サッカー」の他、災害救助で技術を競う「レスキュー」において、それぞれに実機部門とシミュレーション部門があります。さらに日常生活での活用を目指す「@ホーム」と、次世代を育てる目的で開催される「ジュニア」があります。

伊藤先生の研究室が参加するレスキューのシミュレーション部門は、災害を想定した約30のシナリオが用意され、最初は全チームによる予選ラウンド、次に上位8チームによる準決勝ラウンド、さらにその上位4チームによる決勝ラウンドによって優勝が決まります。

◆愛工大でロボカップ開催を実現

伊藤先生は、学生を率いて競技に参加するだけでなく、2006年(平成18年)から国際委員会の技術委員を務め、2011年(平成23年)からは執行委員という立場でシミュレーション部門をまとめ、2013年(平成25年)より日本委員会理事も務めています。

「単に競技会で終わるのではなく、その後、どのように研究を進め、社会でどのように役立てるかが最終的な目標です」。各チームが得意分野で進めた研究成果をシミュレーションで競うことで、実際の災害救助に活かせるような総合的な研究へと発展させることが可能になると言います。

「競技という形式をとることで勝敗を前提に競争意識が生まれますし、目標に向けて短時間で研究を進める原動力にもなっていますね。学生たちが能力アップをする良い機会になっていると思います」。

2016年3月には、「ロボカップジャパンオープン2016愛知」が愛知工業大学で開催されます。それに向けて、研究室ではプラットホームの開発やシナリオ作成を進めているところだと言います。



ロボカップの打ち合わせ



学生たちと意見交換

※ロボカップ世界大会2015(中国)で優勝しました!

同窓生入試で愛工大へ!

開学50周年記念事業の一環で始まった同窓生入試は、同窓生のご子息のために設けられた制度です。小論文と面接による選考が行われます。入学金の優遇制度もありますので、ぜひご利用ください。詳しくは入試広報課へお問い合わせください。



この制度を知ったのは、父が研究室の先生と別件で話をした折に同窓生入試のことを聞いたからです。とくに強くすすめられたわけではありませんが、自分としてはAO入試や推薦入試など様々な入試制度の1つとして、選択肢が広がったと思いました。結果、同じ大学に進むことになり、父も大変喜んでくれました。この制度を利用して入学できて良かったと思います。もう少し事前に情報を得ることができたなら、利用する人も増えるのではないのでしょうか。

多保 友裕さん
都市環境学科
土木工学専攻4年

■スケジュール [2016年度]

小論文・面接(口頭試問を含む)
工学部・経営学部・
情報科学部……………10/30

合格発表
11/6

※検定料35,000円

入学手続
入学金……………12/14
指定書類・学納金等
……………1/12

同窓生入試受験者					
	2014年度	2015年度		2014年度	2015年度
電気工学専攻	●●		建築学専攻	●	
電子情報工学専攻	●		住居デザイン専攻	●●	
応用化学専攻	●		経営情報システム専攻	●●●	●●●
バイオ環境化学専攻			スポーツマネジメント専攻	●●●	●●●
機械工学専攻			コンピュータシステム専攻	●	●
機械創造工学専攻		●	メディア情報専攻		●●
土木工学専攻			合 計	11名	8名
防災土木工学専攻					

多彩な入試制度を用意しています!

★早めの合格を目指すなら▶**推薦入試** (スポーツ推薦) (女子学生推薦) (一般推薦) **出願は10月からスタート!**

★今からでも間に合う▶**一般入試** (下記日程) **1月以降の出願で受験できます。**

■今からでも間に合う入試日程 ※出願に関して、前期日程A方式、前期日程M方式、後期日程M方式、センター3期はメチ日必着(持ち込み可)で、これ以外の入試はメチ日当日の消印有効です。

入試区分	入試の名称	出願期間	試験日	実施学部	試験会場	合格発表日
前期日程	一般入試	前期日程 A方式(記述式)	1/27(水)	全学部	本学(八草キャンパス・自由ヶ丘キャンパス)、一宮、豊橋、岐阜、四日市、津、浜松、静岡、富山	2/10(水)
			1/28(木)		本学(八草キャンパス・自由ヶ丘キャンパス)、一宮、豊橋、岐阜、四日市、津、浜松、静岡、富山、金沢、岡山、松本、福岡	
	1/29(金)					
	センター試験利用入試	センター1期C方式(3教科利用)	1/6(水)~15(金)	本学が課す試験はありません。		
後期日程	一般入試	後期日程 M方式(マークセンス)	3/4(金)	全学部	本学(八草キャンパス)、豊橋、岐阜、四日市、津、浜松	3/10(木)
			2/2(火)~24(水)			
	2/23(火)~3/4(金)					
	センター試験利用入試	センター2期C方式(2教科利用)	2/23(火)~3/4(金)	本学が課す試験はありません。		3/19(土)

[入試に関するアレコレ、ここでチェック! ▶▶▶ <http://www.ait.ac.jp/nyushi/index.html>]

2015 オープンキャンパス開催!



学生パネルディスカッションなどが行われました。

10号館では、「入試説明・推薦入試対策講座」が開かれ、受験生や保護者が説明に耳を傾けていました。「学科・専攻デモンストレーション」では、キャンパスを巡りながら現役の学生たちによる展示や実験などを見学し、受験生たちが興味深く話を聞く姿が見られました。学内の食堂でランチを食べられる「学食体験」もあり、キャンパスライフの一端を楽しんでいました。

八草キャンパスでは、大学祭開催時の10月10日(土)にもオープンキャンパスが開かれ、「大学概要説明」「入試説明・推薦入試対策講座」「個別相談」などが行われました。

2015年7月25日(土)・26日(日)に八草(豊田市)と自由ヶ丘(名古屋千種区)の各キャンパスにおいて、2015年度オープンキャンパスが開催されました。

八草キャンパスの1号館1階には、受付や「個別相談コーナー」などが設けられ、多くの来場者で賑わいました。昨年同様にリケジョにスポットをあてた、「理工系ガール専用ブース」もあり、理系に関心のある女子生徒が相談に訪れていました。また、1号館の特設ステージでは「大学概要説明会」や「女子学生をモデルとした学科説明」「女子

入試に関するお問い合わせ | 愛知工業大学・入試センター TEL 0120-188-651 (入試広報課FAX) 0565-48-0 E-mail nyushi@aitech.ac.jp

キャリアセンターを利用して

インターンシップに参加して



水谷 榛華さん
建築学科建築学専攻4年

3年の12月終わりから就職活動の準備を始めました。週1回、先生と面談しながらエントリーシートの記入の仕方などアドバイスをもらいました。1月からはキャリアセンターで面接の練習やグループワークをしました。緊張しやすいタイプなので、事前に模擬面接や課題を時間内で解決するワークを体験できたことは良かったと思っています。また、インターンシップや学内企業展も役に立ちました。志望企業を施工管理会社に決めたのはインターンシップの体験があったからです。お世話になった企業の担当者の方と学内企業展で再会できたことも幸いでした。そのおかげで第一希望として試験を受け、内定をいただきました。



高田 奈緒さん
電気学科電子情報工学専攻4年

インターンシップ制度は知っていましたが、最初は参加するつもりはなかったのですが、興味があったCADによる機械設計の企業があったので、キャリアセンターに相談して3年の夏休みに行きました。企業の設計担当の方が基礎からいろいろ教えてくださり、図面を描くこともできて、本当に楽しい経験でした。1人だけで行うと思っていたCAD設計が、多くの人と関わりながら進める仕事だとわかったのも成果の1つです。人事担当の方からは社会人としての心構えを教えてください、「信頼を無くす人は約束の時間を守らない人」という言葉に、自分では信頼を無くすのは仕事ができない人と考えていた部分もあり、勉強になりました。



杉浦 純平さん
機械学科機械工学専攻4年

キャリアセンターでは履歴書など書類の添削や面接の仕方を教えてもらいました。よく出る質問も面接で練習していたので、本番ではスムーズに答えることができました。自分だけではわからないことも多く不安ですが、キャリアセンターの方々いろいろ聞いて参考にしました。学内企業展は、出展企業が愛工大の学生目当てなので詳しい話ができました。担当者がOBの場合は、就職活動の話も聞いて心強かったです。希望している海外勤務のことや、普通は聞きづらい残業や休日出勤のことも聞いて良かったです。その結果、出展企業の中からも希望の企業が見つかり、幅が広がりました。無事、自動車業界に内定がとれました。



出雲 友規さん
機械学科機械創造工学専攻4年

大学で学んだことが現場ではどのように使われているのを知りたかったので、2社に行きました。1つは大学の募集サイトに掲載されていた自動車部品の金型を作る会社です。ここでは設計、製造と品質検査から出荷まで、2週間で一通り経験しました。今まで設計しか興味がなかったのが、生産技術全般にやりがいを感じることができ、方向性をチェンジするきっかけになりました。2つ目の航空部品の設計をする企業では、大学で学んだ内容よりレベルが高いことがわかり、大学とは異なるCADソフトの使い方や効率の良い進め方などを経験できたのが収穫でした。最終的に航空機関連のメーカーを目指し、内定をもらうことができました。

同窓生が所属している企業を主とした企業展、「瑞若会企業展」にご参加ください

瑞若会(愛知工業大学同窓会)では、例年、在学生への就職支援の一環として学内企業展を開催して参りました。2015年(平成27年)度は就職支援に加え、キャリア教育の一助として全学年対象の学内企業展を7月11日(土)に開催し、同窓生が所属している企業を中心に53社と、254名の学生の参加がありました。

また、学生の取り組みの一部であり、本年4月に新2号館にオープンしたロボットミュージアムを出展展示というかたちで本学同窓生をはじめ参加企業の皆様にご紹介しました。



【2016年度開催のお知らせ】
2016年度も7月頃に「瑞若会企業展2016」を開催する予定です。参加希望の企業様は、2016年5月末までに、E-mailまたはFAXにてキャリアセンターへご連絡ください。キャリアセンターより詳細のご案内をさせていただきます。
※応募多数の場合は、ご参加いただけない場合もございますので予めご了承ください。

インターンシップ制度について

キャリアセンターでは、各専攻の担当教員と連携をし、就職指導・支援を行っています。インターンシップ制度を活用した職場体験もすすめておりますので、学生受け入れにご協力いただける企業様は、キャリアセンターまでご連絡ください。

求人のご依頼について
求人には、下記から一括で求人票の登録ができますので、ぜひ、ご利用ください。

WEB求人登録システム
URL <http://www.kyujin-navi.com/uketsuke/>

卒業生向けの求人検索サービスのご案内
卒業生の方々が、「既卒者可」の求人が検索できるサービスを実施しています。下記のアドレスから登録していただき、ご利用ください。

既卒者求人検索
URL <http://www.ait.ac.jp/career/center/>

就職に関するお問い合わせ | 愛知工業大学・キャリアセンター TEL 0565-48-4655 (直) FAX 0565-48-6140 E-mail syusyoku@aitech.ac.jp

2015年3月に退職された教員



石田 和人教授 1970年～ 木村 勝行教授 1969年～ 沢田 克敏教授 1992年～ 中村 満喜男教授 1975年～ 村田 護准教授 1970年～ 山田 諄教授 1974年～ 山本 勝教授 2008年～ 2015年度～客員教授

退職教員に聞きました！(敬称略)

■1976年(昭和51年)に建築工学科が創設され、その準備として半年前に赴任いたしました。以後、学科は順調に成長しましたが、2004年(平成16年)に学科が閉鎖されました。卒業生は3000名をわずかに超えます。私は学科創設から終焉までを見据えることになりました。多くの卒業生そして多くの先輩教職員の足跡は、今日に至るも残っています。(中村)

■八草キャンパスでの2年間に続いて5年間の自由ヶ丘キャンパスでの学生との教育・研究生活は、今となっては懐かしい思い出と財産です。「システム・マネジメント」を学ぶゼミ学生達や中国留学生等との公私両面での交流、学内の諸先生方からのご厚情とご指導に心から感謝いたします。(山本)

■レーザプラズマやレーザ計測の研究に携わり、636名の卒研究生、53名の修士、5名の博士を社会へ送り出してきました。幸運な

大学や学生たち、講義や研究で印象に残ることは？

ことに多くの卒業生が社会のそれぞれの部署で活躍されていることが私の誇りであり、私のかけがいのない財産です。(山田)

■「水理学」と「水理実験」の2科目は最後まで担当しました。水理学の基本原理解は日常でどのように利用されているか、例えば、水洗トイレには「サイフォン」の原理が、海岸の消波ブロックには「流れの急転はエネルギー損失が大きい」という原理が巧みに取り込まれている等々の説明に力を入れました。学生は良く理解してくれたと信じるしかありませんが…。(木村)

■建築学科が創設されて3年目に採用され、着任当時は専門ではない設計製図の課題作成にあたったのも今となっては良い思い出となっています。単に即戦力となり得るだけでなく、基礎体力を備えもつことにより、適応能力、創造性に富んだ卒業生を送り出すことを心がけてきました。(石田)

大学祭工科展と駅伝大会で「瑞若会特別賞」を授与

大学祭開催時の10月10日(土)に行われた工科展と11月5日(木)に開催された愛工大駅伝大会では、上位入賞者とは別に優れた作品や成績に対して、瑞若会より特別賞を授与しています。今年度の授与は右記のチームです。



工科展で特別賞を授与



晴天の中、行われた駅伝

- 《工科展》
奥川研究室「ツアーガイドロボ、パーソナルモビリティ」の展示、発表
- 《駅伝大会》
●オープン・コースの部
ロック・ユ・レシスタブ
●学生・教職員交流の部
中井研と帰ってきた酔っ払い
●選手権の部
バドミントン部K

事業報告(平成27年1月1日～平成27年12月31日)

月	本部の会議	各種行事
1月	平成26年度第3回総務常任委員会開催(1/15)	
2月		
3月	平成26年度第4回総務常任委員会開催(3/31)	■平成26年度 卒業式「瑞若賞」贈呈(3/23) 卒業生に記念品配布(3/23)
4月	平成27年度第1回事務局会議開催(4/28)	■平成27年度入学式(4/2)
5月		●「みずわか」編集委員会開催(5/6) ●「瑞若」選定会(5/8)(名古屋ガーデンパレス) ■新会員のデータ入力(5/27) ■新会員の同窓会費入金処理(5/28)
6月	●次期役員推薦委員会(6/11)(名古屋ガーデンパレス) 平成27年度第2回総務常任委員会開催(6/12)	▲愛知県私立大学同窓会連合会平成27年度理事会・総会(6/3) ●「みずわか」編集委員会開催(6/17) ●中・四国支部交流会(6/20) ●清酒「二代目瑞若」販売開始(6/27)
7月	平成27年度第3回総務常任委員会開催(7/9)	◆職場支部近藤グループ懇親会(7/10) ◆関西支部総会(7/11) ●瑞若会(同窓会)企業展(7/11) ▲愛知県私立大学同窓会連合会第4回会員大学見学会・情報交換会(7/18)(日本福祉大学 東海キャンパス)
8月		●ホームカミングデー(7/25・26) ▲土木工学科開設50周年祝賀会開催(7/25)(杜朋) ▲建築系学科新2号館見学会(7/26)(不器会)
9月		◆中・四国支部総会(9/12)(アークホテル岡山) ▲三重AITオープンフォーラム(9/19)(四日市都市ホテル) ▲静岡AITオープンフォーラム(9/26)(ホテルクラウンパレス浜松)
10月	平成27年度第4回総務常任委員会開催(10/16)	■応用化学科開設55周年記念式典(10/3) ■愛工大祭 開催への援助(10/8～10/11) ■工科展(10/10)「瑞若会(同窓会)特別賞」贈呈 ▲愛知県私立大学同窓会連合会第5回会員大学見学会・
11月		意見交換会(10/24)(名城大学)
12月		

凡例：●本部事業 ■学内事業 ◆支部事業 ▲その他

人事異動に関するお知らせ

異動種別	学部	職名	氏名	備考
新任教員	工学部電気学科	教授	小塚 晃透	61E
	工学部応用化学科	准教授	村田 剛志	
	工学部土木工学科	教授	城戸 由能	
	工学部土木工学科	教授	横田 崇	
	工学部土木工学科	講師	宗本 理	
	工学部建築学科	教授	薩川 恵一	
	工学部建築学科	講師	鈴木 敏志	
	経営学部経営学科	准教授	小林 富雄	
	情報科学部情報科学科	准教授	梶 克彦	
	新規採用	工学部土木工学科	有期契約職員	松井 寛幸
人事異動(卒業生関係)	昇格	愛知工業大学情報電子専門学校	教授	中山 貴子 H8R
		工学部機械学科	講師	武田 亘平 H20M
		総務課	事務主任	小西 貴之 H17T
		学生課	事務主任	馬詰 恵伍 H17U
	任命		学長	渡辺 修 45M
			学生支援部長	山田 英介 46C
			キャリアセンター長	津田 紀生 H4R
		工学部電気学科	教授	沢田 克敏
		工学部電気学科	教授	山田 諄
		工学部電気学科	嘱託技術職員	前田 正輝 47E
	工学部応用化学科	准教授	村田 護	
	工学部土木工学科	嘱託技術職員	伊庭 恒夫 48D	
	工学部都市環境学科	教授	木村 勝行	
	工学部建築学科	教授	石田 和人	
	工学部建築学科	教授	中村 満喜男	
	経営学部経営学科	教授	山本 勝	
	愛工大名電高等学校	教諭	杉浦 由直 47E	

平成26年度 決算書(収支計算書)

経常経費(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

科目	予算額	決算額	差額	備考
収入の部				
入金(基本金)	8,900,000	9,444,000	544,000	
終身会費	36,000,000	38,160,000	2,160,000	
年会費	0	0	0	
受取利息	88,000	69,308	△18,692	
雑収入	0	0	0	
当期収入合計①	44,988,000	47,673,308	2,685,308	
前期繰越金②	21,841,174	21,841,174	0	
収入の部合計①+②	66,829,174	69,514,482	2,685,308	

支出の部

科目	予算額	決算額	差額	備考
事業費				
学科学部支援助費	4,500,000	5,536,307	1,036,307	
名簿管理・IT関連費	1,500,000	1,207,218	△292,782	
会報発行費	7,500,000	7,191,111	△308,889	
大学祭援助費	600,000	600,000	0	
卒業記念品費	2,500,000	2,205,360	△294,640	
準会員支援費	2,500,000	1,517,408	△982,592	
準会員奨学費	7,000,000	5,000,000	△2,000,000	
[小計]	26,100,000	23,257,404	△2,842,596	
人件費	3,000,000	2,905,376	△94,624	
消耗品費	300,000	184,925	△115,075	
会議費	1,800,000	1,969,644	169,644	
慶弔費	300,000	215,210	△84,790	
私大同窓会連合会	150,000	134,482	△15,518	
雑費・手数料	300,000	212,336	△87,664	
[小計]	5,850,000	5,621,973	△228,027	
予備費	500,000	0	△500,000	
基本積立金へ	8,900,000	9,444,000	544,000	入会金
当期支出合計③	41,350,000	38,323,377	△3,026,623	
当期収支差額④(①-③)	3,638,000	9,349,931	5,711,931	
記念事業準備費へ⑤	3,000,000	3,000,000	0	
次期繰越金⑥(②+④-⑤)	22,479,174	28,191,105	5,711,931	
支出の部合計③+⑤+⑥	66,829,174	69,514,482	2,685,308	

基本積立金(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

収入の部

科目	予算額	決算額	差異	備考
経常経費から繰入	8,900,000	9,444,000	544,000	入会金
前期繰越金	205,854,087	205,854,087	0	
収入の部合計	214,754,087	215,298,087	544,000	

支出の部

科目	予算額	決算額	差異	備考
次期繰越金	214,754,087	215,298,087	544,000	
支出の部合計	214,754,087	215,298,087	544,000	

記念事業準備費(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

収入の部

科目	予算額	決算額	差異	備考
経常経費から繰入	3,000,000	3,000,000	0	
前期繰越金	3,000,000	3,000,000	0	
収入の部合計	6,000,000	6,000,000	0	

支出の部

科目	予算額	決算額	差異	備考
次期繰越金	6,000,000	6,000,000	0	
支出の部合計	6,000,000	6,000,000	0	

会員計報

立木 長一 37E	野村 早加 44R	重泰 永一 45R	男治 一宏 46R	佐藤 添野 46R	友良 信好 46R	俊平 雄昭 46R	52M	鈴木 加小 44R	木島 野口 44R	宏謙 信得 44R	明次 也悟 44R
神原 秀一 38E	川瀬 山本 41E	尾崎 憲之 41E	村田 早加 46R	川野 早加 46R	川野 早加 46R	川野 早加 46R	52M	加小 中田 44R	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R
早瀬 山本 41E	山本 昌幹 42E	52M	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R					
深井 文彦 38E	山本 昌幹 42E	52M	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R					
吉田 文彦 38E	山本 昌幹 42E	52M	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R					
田中 文彦 38E	山本 昌幹 42E	52M	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R					
安藤 文彦 38E	山本 昌幹 42E	52M	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R					
伊藤 文彦 38E	山本 昌幹 42E	52M	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R					
吉村 文彦 38E	山本 昌幹 42E	52M	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R	野口 眞一 44R					

宮地 巖教授が、2015年2月1日に逝去されました。ご冥福をお祈りします。1980年工学部電気工学科教授として採用され、1987年に定年退職し、その後は特任教授、1989年からは客員教授。